

【別紙】 令和3年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立 仲町小 学校)

(A4判横)

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校教育目標	かしこい子 やさしい子 たくましい子
目指す学校像	子供たち一人一人の可能性を伸ばし、たくましく未来を切り拓く学校 ～学校・家庭・地域が連携し 学び合い・ふれあい・高め合い～

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者 (教職員を除く)	5名
事務局 (教職員)	3名

学 校 自 己 評 価				年 度 評 価 (令 和 4 年 2 月 1 4 日 現 在)		
領 域	年 度 目 標			重点目標の達成状況	達成度	
	現状と課題	重点目標	具体的方策			次年度への課題と改善策
組織運営	<p>○学校教育目標の達成に向けて、各分掌において具体的な活動に取り組んでいる。コロナ禍における教育活動について、関係分掌間でコミュニケーションを図りながら建設的な策を打ち出し、機動的な組織体制のもと充実を目指す。</p> <p>□教職員の学校運営参画意識を一層引き出し、より効果・成果に繋げていく取組が必要である。</p>	<p>○コロナ禍の教育活動について、職員に優先順位を周知し、圧縮、軽重の視点をもちつつ、目指す学校像の具現化に向けてチームとして最大限の成果をあげる組織運営を行う。</p> <p>□各主任のリーダーシップのもと、PDCAサイクルにより、効果的な教育活動の実現を目指す組織とする。</p>	<p>○各時期における重点目標及び実現のための方策を具体的に示し、各リーダー層のコミュニケーションを充実させ、組織運営を活性化していく。</p> <p>□学校課題を常に明確にし、分掌主任への日常における継続的な指導の機会を増やす。</p>	<p>○コロナ禍での教育活動の推進に向けて、昨年度の経験を生かしつつ、組織の力を最大限に生かしながら「児童の安心・安全」「児童の学びの確保」に取り組むことができた。</p> <p>□各主任がリーダーシップを発揮し、教育活動の充実を図ることができた。しかしながら、学校行事など、やむを得ず縮小や中止したこともあり、コロナ禍における教育活動の充実に向けて、教職員の知恵を集結し、さらに検討する必要がある。</p>	B	<p>○開かれた教育課程の理念のもと、保護者や地域との信頼関係を築きながら「児童の安心・安全」「児童の学びの確保」に取り組む、コロナ禍であっても児童の更なる成長を効果的に図る教育活動を創造していく。</p> <p>□ベテランの底力と中堅・若手の機動力を融合させ、PDCAサイクルのもと、組織として必要な教育改革に果敢に取り組むことかできるようにする。</p>
教育課程	<p>○子供たちの学力向上に向けた「主体的・対話的で深い学び」による授業改善に取り組んでいる。子供たちの学力の伸びに繋がることが求められる。</p> <p>□コロナ禍において、児童の学びを止めない方策の検討が必要である。年代を問わず、ICTを積極的に活用し、教育活動の充実と繋げる。</p>	<p>○児童一人一人に分かる喜びを味わわせることができるように、教育課程の見直し及び授業の質的改善に取り組み、資質・能力の育成により学力の向上を図る。</p> <p>□ICTを積極的に活用し、児童が学ぶ楽しさを味わえる授業を実践するとともに一人一人の学力の伸びに繋げる。</p>	<p>○学力調査等を活用し、本校の学力における課題を明らかにするとともに、資質・能力の育成に向けた授業の在り方、指導と評価の一体化について研修に取り組み、授業の質的改善を実現させる。さらに、日本語指導教室との連携を密にし、日本語指導の組織的・継続的・効果的な指導・支援を実施する。</p> <p>□ICTの効果的な活用について指導者を招聘し、研修に取り組む。</p>	<p>○県の委嘱による食育の研究に全教職員で取り組み、各教科等における食に関する指導力の向上を図った。また、昨年度に引き続き大学教授を招聘し、対話的な学びに視点を当てた授業研究に取り組んだ。また、日本語指導の充実に向けて、授業研究に取り組み、児童の伸びにつながった。</p> <p>□ICTの活用について、主幹教諭や、情報担当教員、ICT支援員などを指導者とした実践的な校内研修に取り組み、教育活動の充実と繋げることができた。</p>	A	<p>○引き続き授業の質的改善に取り組み、資質・能力の育成により学力の向上を図る。日本語指導について、指導力の蓄積を効果的に引き継ぐシステムを構築するとともに、学習言語能力の向上に向けた研究に取り組む。</p> <p>□研修の際の授業研究の在り方を工夫し、児童の学ぶ姿から、本質に目を向けた授業研究をさらに充実させる。ICTの活用について、今年度の取組の蓄積や他校での実践を参考にするとともに、「先ずは実践」を合言葉にさらに積極的に取り組む。</p>
開かれた学校づくり	<p>○児童の様子をHPで発信するなど、学校の教育活動を積極的に公開するとともに、保護者や地域の方々のボランティアによる活動に積極的に取り組んでいた。</p> <p>□昨年度からスタートした学校運営協議会や学校公開が計画的に開催できないう状況であり、学校の様子を直接見ていただき、意見交流を行う機会の充実と課題がある。</p>	<p>○学校の教育活動を積極的に公開するとともに、保護者・地域との連携により学校の教育力を向上させ、地域に愛され育つ学校を目指す。</p> <p>□学校運営協議会等を通して、保護者や地域との課題共有を図るとともに連携を強め、協働を実現させる。</p>	<p>○担当教職員と連携し、HPの発信を積極的に行うなど、学校としての情報発信に努める。</p> <p>□コロナ禍における学校公開や学校運営協議会等の在り方を見直し、方法について工夫することをし、学校と家庭・地域との連携を強め、協働を実現させる。</p>	<p>○総合的な学習の時間などにおいて、地域の方々を講師とし、学習活動を充実させることができた。また、昼校時の安全について、朝礼時に地域の方々から直接児童に呼び掛けていただき、意識の向上につながった。学校公開や学校行事における公開の方法の工夫を図った。</p> <p>□学校運営協議会(コミュニティスクール)において情報共有を図り、コロナ禍での教育の充実に向けてさらに検討を行う。学校HPの積極的な更新による公開に課題が残った。</p>	A	<p>○「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、学校の教育課程を通じて、子供たちが社会とつながり、よりよい社会と幸福な人生を自ら作り出していける力を育むべく、保護者・地域との連携により学校の教育力を向上させ、地域に愛され育つ学校を目指す。</p> <p>□学校運営協議について、オンラインでの実施や授業視察などの工夫を図り、学校運営に関わる地域との連携を共有し、地域に開かれた学校づくりをさらに推進する。</p>
教職員の資質向上	<p>○児童理解に基づく、細やかな配慮のある教育実践を行う教職員が多い。働き方改革と併せて、様々な課題に適切に対応できる力の向上が課題である。</p> <p>□授業力の向上に向けて、更なる研鑽を積む必要がある。</p>	<p>○児童一人一人との信頼関係を構築し、安心して通える学校づくりに組織的に取り組む教職員の育成を推進する。</p> <p>□授業力の向上に向けて、主体的・組織的に取り組む教職員の育成を図る。</p>	<p>○生徒指導部会、教育相談部会を中心とし、関係機関とも連携を図りながら、一人一人の状況に応じた支援策について検討し、安心して通える学校づくりに組織的に取り組む。</p> <p>□働き方改革に伴い、業務内容の見直しによる具体的な削減・行い、児童に向き合う時間を増やす。</p> <p>□教員同士が指導力の向上に向けて互いに学び合う場を設け、意欲及び指導力の向上を図る。</p>	<p>○児童一人一人について全教職員が理解を回り、指導・支援に生かすことができるよう、生徒指導部会、教育相談部会を中心とした共通理解の場や研修を充実させた。</p> <p>□教頭を中心に働き方改革に積極的に取り組み、全教職員の意識を向上させた。</p> <p>□研究授業時の協議の在り方に工夫を図り、本質について議論することで指導力の向上につなげることができた。また、メタ認知を講師とした若手教員の指導力向上に向けて自主研修に取り組んだ。</p>	B	<p>○全教職員が組織として一体となり、児童一人一人の理解に努めるとともに、これからの時代に必要なる資質・能力を育むための授業づくり、教育活動に注力することにより、児童が安心して楽しく学べる学校とする。</p> <p>□教職員の資質・能力の向上に向けて、必要感のある、主体的な研修を行っていき。働き方改革に向け、本質を見極めた業務の整理と思い切った削減により、子供と向き合う時間と心のゆとりを確保する。</p>
施設・設備等の管理	<p>○保護者・地域の協力のもと、緑化や環境美化が充実し、潤いのある学校づくりが進んでいる。</p> <p>□施設・設備の確実な管理、教育効果を充実させる整備等が進んでいる。</p>	<p>○緑化・環境美化・環境整備を進め、潤いのある学校を実現させる。</p> <p>□安全に教育活動を実施することを第一に、施設・設備を管理する。</p>	<p>○清掃活動や緑化活動をさらに充実させるとともに、校内掲示を充実させ、潤いのある教育環境を整える。</p> <p>□定期的・臨時的な安全点検を充実させ、教職員の危機管理意識を高めながら、計画的に環境整備を進める。</p>	<p>○日常的な清掃活動、授業や委員会活動に伴う緑化活動、PTAによる環境整備活動により、潤いのある教育環境を整えることができた。また児童の温かみのある作品の掲示などで潤いのある学校づくりを進めることができた。</p> <p>□校舎の老朽化が進んでいるが、全教職員や保護者による定期的・臨時的な安全点検により、危機管理意識を高めるとともに、施設・設備の事故を防ぐことができた。</p>	A	<p>○定期的な安全点検はもとより、老朽化の激しい箇所思い切った修繕も必要となる。また、3・5学年級の実現に伴う利用教室の見直しや整備を進めていく。</p> <p>□児童の作品の発表の場を一層増やし、児童の自己肯定感の伸長をさらに図っていきたい。</p>

学 校 関 係 者 評 価	
※実施日	令和 4 年 2 月 2 1 日
学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	
<p>○コロナ禍にあっても、教育の質が低下することのないよう、組織で力を合わせて今後も子供たちの育成に取り組む必要がある。</p>	<p>○子供の学びは、“やらされる”ものであってはならない。子供が問題を見いだして課題を設定し、主体的に考えることができるよう、授業の質の転換を図る必要がある。</p> <p>□コロナ禍において、改めて学校の意義を問い直す必要がある。子供の学びを止めないため、必要に応じてオンライン授業が行われているが、小学生では集中の持続に限界があるだろう。発達段階的な側面から見ても、友達と一緒に学ぶ対面授業の方が、教育的効果の高まりが期待できる。一方で、端末を活用した授業や家庭学習などについては、児童の学習意欲の向上や、理解を深めたり、問題解決的な学習に向けて効果的な活用を図ることができたりするなど、旧来の学びと比較しメリットも多い。</p>
<p>○朝の登校時の見回りについて、スクールガードリーダーと併せて、今年度は特にPTAによる朝の見回り体制も充実しており、テレワークの影響からか、父親の参加も増えたことがよかった。</p> <p>□放課後子ども教室の開設に向けて、人材の確保に取り組んでいく。</p>	<p>○朝の登校時の見回りについて、スクールガードリーダーと併せて、今年度は特にPTAによる朝の見回り体制も充実しており、テレワークの影響からか、父親の参加も増えたことがよかった。</p> <p>□放課後子ども教室の開設に向けて、人材の確保に取り組んでいく。</p>
<p>○教員のなり手不足が課題とされる中、働き方改革に向けて、学校行事等については、本質を見極めながら精選・工夫を図るなどし、学校が本来の仕事に注力できる体制を整える必要がある。</p>	<p>○朝の登校時の見回りについて、スクールガードリーダーと併せて、今年度は特にPTAによる朝の見回り体制も充実しており、テレワークの影響からか、父親の参加も増えたことがよかった。</p> <p>□放課後子ども教室の開設に向けて、人材の確保に取り組んでいく。</p>